中国がわかるシリーズ 30
五代十国時代に入る （後）

ライフネット生命保険株式会社
代表取締役会長兼 CEO、出口　治明氏

ウイグル帝国の滅亡以来、権力の空白が続いていた北方の草原では、916 年、耶律阿保機がキタイ帝国（契丹、遼）を建国しました。キタイは（600 年近く）有力 8 部の長（大人）が交代で河汗となりキタイ連合を支えるシステムを採用していましたが、耶律阿保機は、漢人幕僚の献策を容れて、帝位に登ったのです。キタイは、駅伝制（ジャムチ）を整備し、仏教を篤く信仰しました。

919 年からはモンゴル高原への進出を開始し、ステップ・ルートを掌握して、西方諸国との交易を目論みました。安禄山が根拠地とした燕の地には、五京の1つ、南京析津府がおかれ、交易で大いに賑わいました。東アジアでは、おそらく、開封と並ぶ大都市であったのでしょう（北京の実質的なスタートが始まったのです）。

ウイグルが始めた都市の重視は、キタイでは更に発展し、遊牧帝国の統治機構の強化に資することになりました。この大帝国から、キタイ（キャセイ）という中国の別名が生まれたのです。

918 年、王建が弓裔を倒して、高麗を建国しました。926 年、キタイは渤海を滅ぼしました。935 年、新羅が滅亡。936 年、高麗は、[後]百済を滅ぼし、朝鮮半島を統一しました（コリアの語源）。958 年には、科挙制度を導入しています。しかし、新興の高麗は、強国、キタイの侵入に苦しみました。この頃、檀君の建国神話が出来上がったと見られています。朝鮮民族の始祖、檀君は、外敵に抗して行く民族の拠り所となりました。高麗は 962 年には宋に朝貢していましたが、994 年、圧力に耐え切れず、宋と断交して、キタイに朝貢しました。

Copyright ⓒI-O ウェルス・アドバイザーズ株式会社
発行人：岡本和久、発行：I-O ウェルス・アドバイザーズ株式会社
URL: http://www.i-owa.com；E-mail: info@i-owa.com